



応援奨学金

Report

Vol.128

法学部独自の奨学金制度  
「やる気応援奨学金」を利用した  
学生の体験をご紹介します



最高裁判所訪問での記念写真

## はじめに

私は春季休暇中の1カ月間、ドイツの司法都市であるカールスルーエに滞在しました。語学研修も兼ねて、以前から個人的に興味を持っていたドイツの裁判制度について学んできました。

## 身近な暮らしのなかにある最高裁判所

ドイツの最高裁判所である Bundesgerichtshof (BGH) は、ヨーロッパのお城のような豪勢な造りです。日本の最高裁判所は無機質な鉄筋コンクリート建築のため、雰囲気があるで違います。初めてドイツの最高裁判所を見たときは、ドイツにおける最高位の裁判所がこ

んな賑やかな町中であってよいのかと驚きました。周囲には市街地やデパート、ホテルがあり、最高裁判所は市民生活のただなかに存在しています。私は最高裁判所に対して、なんともいえない親近感を抱きました。現地では、チュービンゲンのロースクール生たちと一緒に裁判所を見学しました。

まず大きな法廷でBGH全体の説明を受けたあと、各法廷と図書館、展示室を回りました。どの法廷もみな会議室のような厳めしい造りではありません。展示室にはドイツの裁判所の古い資料や、法服などが展示されていました。最高裁での裁判傍聴は叶いませんでしたが、とても貴重な経験ができました。

## 市民裁判官と行政裁判所

次に、裁判官の方にお会いすべく、カールスルーエ行政裁判所へ向かいました。行政裁判所の外観もずばりお城です。最高裁判所とは違い、周りは静かな住宅街で人通りも少なく、大きな教会がありました。行政裁判所は、驚くべきことに裁判所のなかへ入っても警備員は一人もおらず、セキュリティチェックもありませんでした。行政裁判所の1階には法廷が3つあ

## 市民に開かれたドイツの裁判 —カールスルーエの特徴

たかはし ゆうか  
高橋 悠夏

法学部国際企業関係法学科3年  
宮城県石巻高校出身



カールスルーエに1カ月間滞在

り、どれも小規模な会議室のようでした。

当日お会いした Julia Sandner 裁判官によると、行政裁判所は市民裁判官制度を導入して、私

が実際に傍聴した裁判も、職業裁判官3名と市民裁判官2名で審議を行っていました。カールスルーエ行政裁判所には、現在38名の裁判官が在籍していて、市民からファックスやメールなどの手段で送られてきた訴訟内容について法廷尋問を開き、そこで裁判を起すか否かを決定し、各裁判官へ振り分けるそうです。行政裁判所の訴訟内容は主に警察官や教師の給与・退職問題、学校問題などで、私が想像し

ていたものよりずっと市民に近い民事裁判のようなものでした。後日 Julia 裁判官の裁判を傍聴しましたが、その裁判は Julia 裁判官一人で行っていました。会議室のような法廷で、裁判官が原告と被告と直接対話する審議方法にとっても驚きました。身体的にも精神的にも裁判官と市民の距離が近い、ドイツの開かれた司法を実感することができました。



カールスルーエ行政裁判所の法廷

2017年の夏には、行政裁判所でのインタビューに挑戦しようと思つています。また、自身の夢である裁判所書記官をめざす第一歩となった今回の訪問は、とても貴重な経験になりました。

## 長期留学のすすめ

法学部事務室

伴 さくら



### 現

在、中央大学には、留学に行くためのプログラムがたくさんありますが、半年〜1年の長期留学に行く手段としては、交換留学や認定留学というものがありません。交換留学は中央大学が協定を結んでいる海外大学への留学、認定留学は協定校以外の大学へ自分で留学許可を取って留学する制度です。どちらも中央大学に在学した状態で留学ができ、手続きを踏めば留学先で修得した単位を中央大学の単位に算入することができるので、4年間で卒業することが可能です。

この『草のみどり』9月号が発行されるころは、秋学期から半年もしくは1年間留学に行く学生が、ちょうど出国される時期かと思えます。法学部では、毎年この制度を使って30名前後の学生が海外へ長期留学をしています。当事務室でも、留学前の相談や面接審査、帰国後の単位

認定手続などに関わっていますので、長期留学に行かれた学生たちの、留学前後の変化を目にすることができそうです。

留学前は期待と緊張からか、多少硬い印象を受ける学生が多いのですが、半年や1年経って帰国の報告に來てくれるころには、皆さん一様に表情も晴れやかで余裕があり、経験に裏打ちされた自信をつけて帰ってこられたということが、よくわかります。

最近の世界情勢の影響もあり、留学することに不安を覚える学生も少なくないようです。確かに長期留学にはさまざまなハードルがあるのも事実ですが、若い人たちが劇的に成長させる経験であることには間違いがないようです。挑戦してみたいけれどいろいろと不安……そんな方には、当事務室でいつでもご相談を受け付けています。